













第1話 転生したら、宿屋の息子でした 003

> 第 2 話 食道楽貴族 035

第3話 冒険者三人組 057

第**4**話 ウルガスとナタリア **087**

第5話 休憩時間は寝るに限る 109

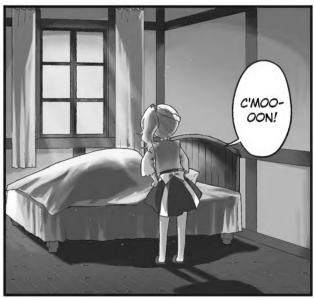
第 6 話 父さんは元冒険者、母さんは元魔法使い 131

第7話 午後の苺パイ 153

書き下ろし小説 ジャム作り 171

















































































































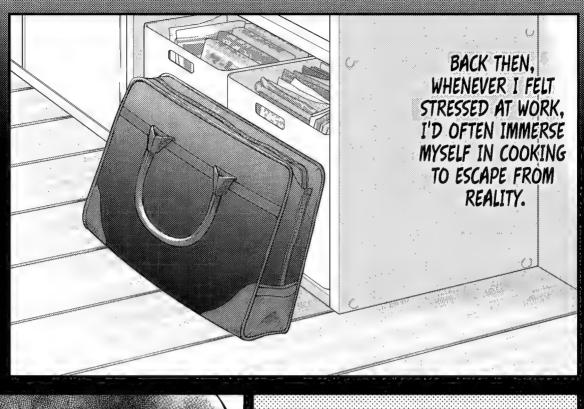




HERE,
THERE'S SOME
INGREDIENTS
THAT I'M
FAMILIAR
WITH...

BUT THERE
ARE OTHER
INGREDIENTS
THAT ARE
UNIQUE TO
THIS WORLD,
TOO.











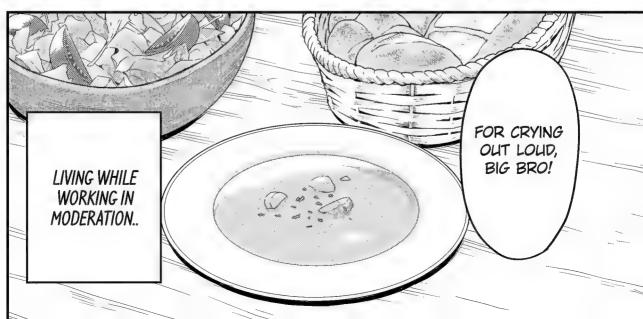
...COME
TO THINK
OF IT, I'VE
ALWAYS LIKED
DOING MENIAL
TASKS LIKE
THIS...

























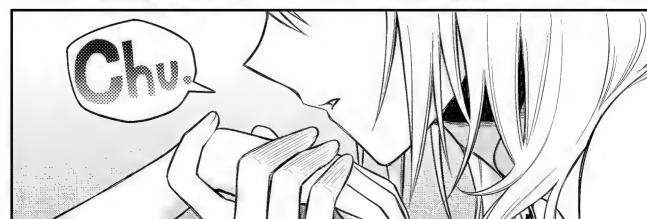






















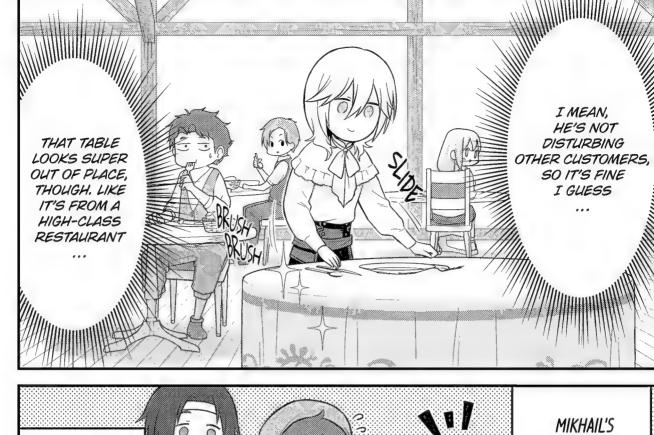




























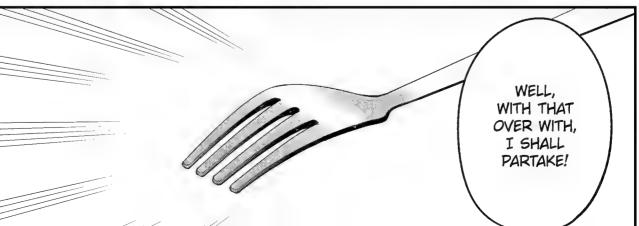


















MIKHAIL REALLY IS A UNIQUE FELLOW.



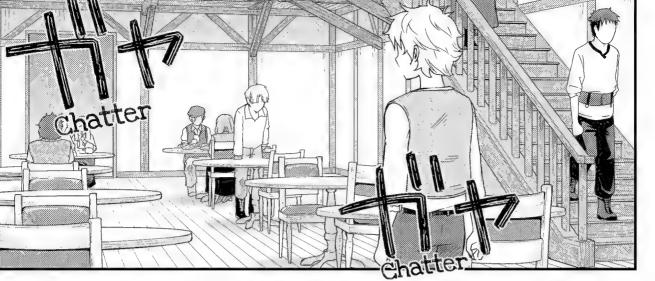
HE COULD GO TO A MORE EXPENSIVE RES-TAURANT OR EAT FANCIER MEALS, AND YET...









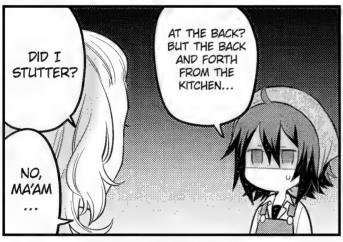








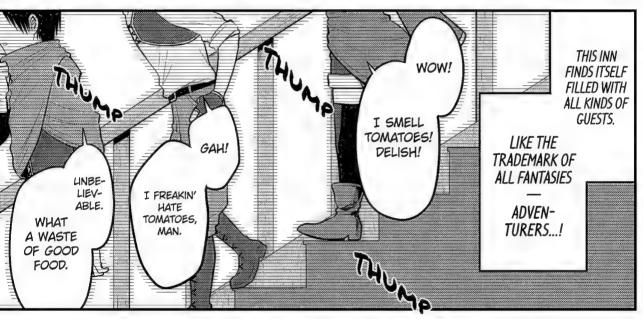










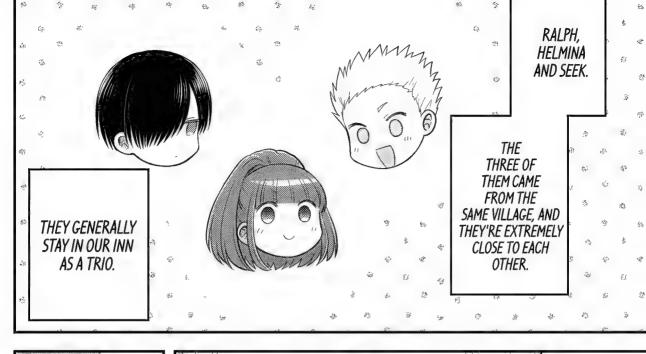


















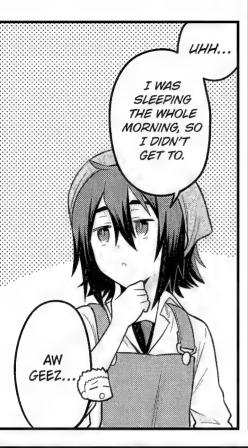




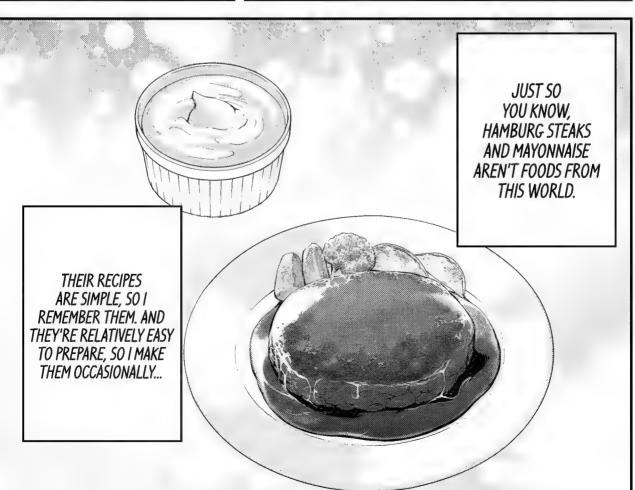




































THERE ARE
MANY TYPES OF
HUMANOID SPECIES
HERE, SUCH AS
DWARVES, ELVES,
OR BEASTMEN.



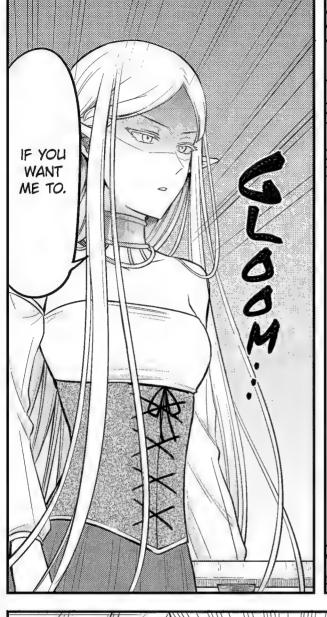
WE'RE HUMANS OF COURSE, LIKE MY FAMILY, MIKHAIL AND THE TRIO. BUT THIS WORLD HAS MORE THAN JUST HUMANS.









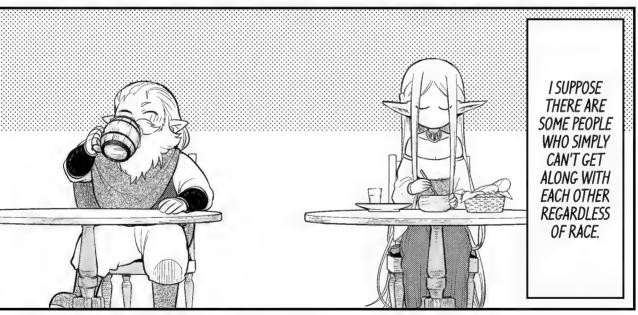


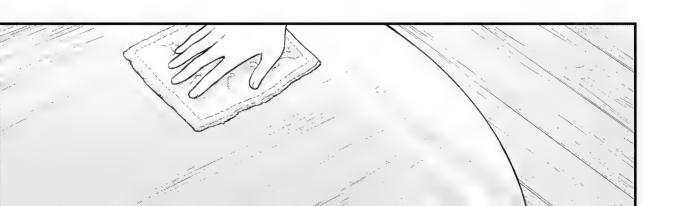
































I HOPE

THEY DON'T

GET HURT...



CLANCE









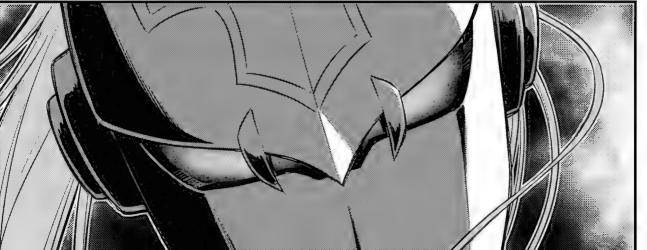














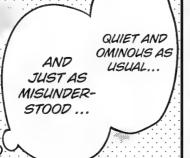




























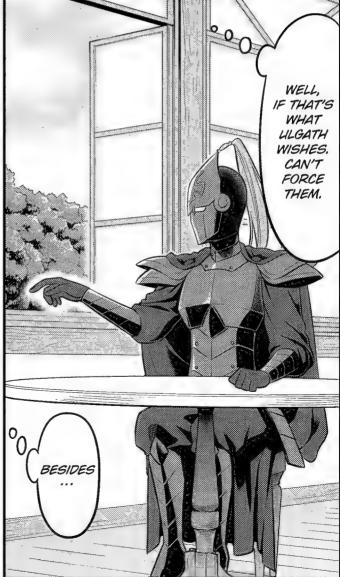












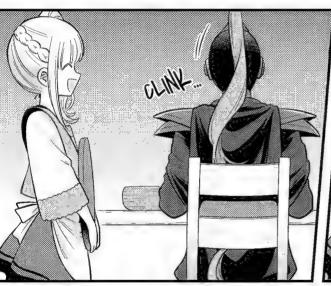












































































を 生したら ない かくろう かくろう なくろう なくろう ない かくろう















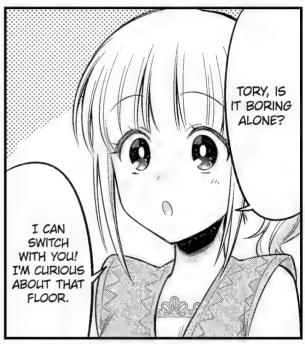








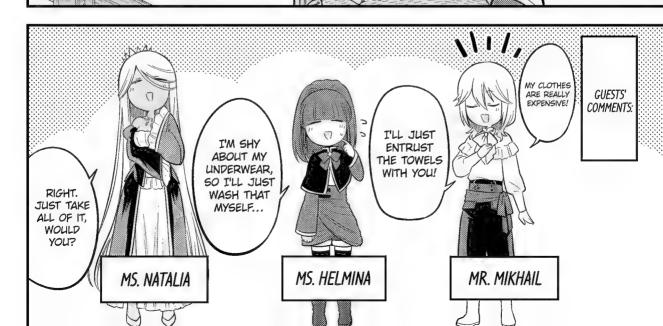














































REALLY, I CAN'T STRESS ENOUGH HOW WONDERFUL IT IS TO HAVE A PROPER BREAK.

A WORKPLACE
WHERE WORKERS
SLAVE WITHOUT REST
EVERY DAY IS
SERIOUSLY
TOXIC...









WANDERING TRAVELERS AND ADVENTURERS COME BY, TOO.



ADVENTURERS TRAVELERS HAWKERS CARPENTER

DURING LUNCHTIME, MOST OF OUR CUSTOMERS AREN'T GUESTS BUT RATHER THE WORKERS FROM THE STREET, LIKE CARPENTERS OR HAWKERS...

























































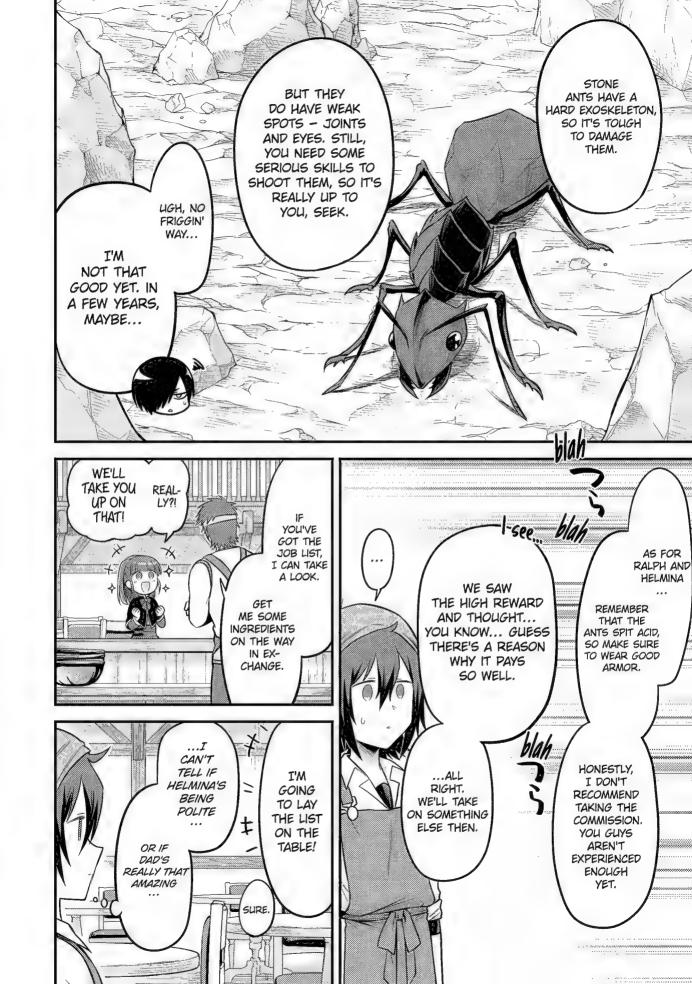






















































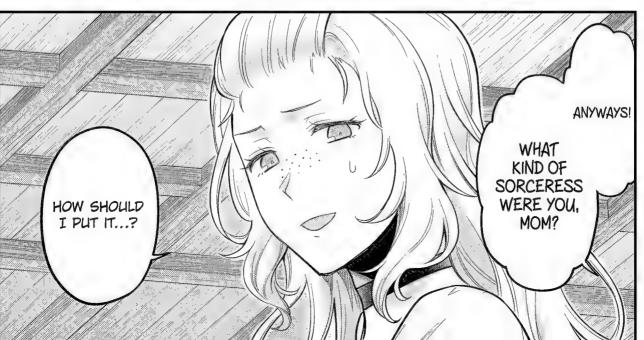




























を 生したら ない かくろう かくろう ない かくろう ない かくろう かくろう



転生したらしのしてした。

田舎街でのんびりスローライフをおくろう

書き下ろし小説

『ジャム作り』

錬金王

と、誰かが入ってくる足音で目を覚ました。誰もやってこない宿の受付に突っ伏して眠っている父さんと母さんが元冒険者だと発覚した昼過ぎ。

「ただいまー!」

「お帰り、ヘルミナ、ラルフ、シーク」

「トーリってば、また寝てたわね?」

顔を上げて出迎えると、ヘルミナが僕の顔を見てく

すくすと笑った。

「寝てないよ」

「嘘つけ。類っぺたについているテーブルの木目が、

トーリの熟睡具合を語ってるぜ」

右の類を擦ってみると、確かに凹んでいた。

「まあ、別にチクったりしねえから安心しろ

「それは助かる」

やはり、持つべきものは理解のある客だ。

大らかなお客が多いお陰だ。そのことに感謝しなくこうやって僕がのらりくらり仕事できているのは、

依頼の方はどうだった?」

さんが出てくる。 なんて人り口で会話をしていると、厨房の方から父

伐依頼を受けた。 今朝、二人は父さんのアドバイスを受けて魔物の討

になる。予想できるが、それでもどんな風にこなしてきたか気予想できるが、それでもどんな風にこなしてきたか気こうやって明るい様子で戻ってきているので結果は

やったら、すごく倒しやすかったわ!」「バッチリよ!」アベルさんに教えてもらった通りに

るヘルミナ。
くさんが尋ねると、とても上機嫌な様子で戦果を語

「まさか、ただの除草剤をかけるだけであんなにエッ

グプラントの動きが鈍るとは……」

「有利な状況を作り出すのが、剣や魔法だけってわけによっては効かない奴もいるから注意は必要だがな」そのまま苦手とするパターンもあるんだ。勿論、個体「植物系の魔物だからな。植物が苦手とする成分が、

じゃないのね!とっても勉強になったわ!」

が、まさか魔物退治にそんなものが役立つとは意外だ。 ていてくれ」 危険を減らすために、道具を活用するってことも覚え 「まあ、これも冒険者の知恵ってやつだな。少しでも 除草角を持っていけとのアドバイスを聞いていた

て転ばされた剣士がいるけどな」 「まあ、もっとも。活用したにもかかわらず、油断

それを聞いて僕たちだけでなく、遠くで聞いていたレ が、油断してヘマをしたラルフの想像が容易にできた。 ティや母さんも笑っていた。 「おい、シーク! 余計なこと言うんじゃねえよ!」 シークにからかわれたラルフが顔を赤くして叫ぶ。 エッグプラントがどのような魔物かはわからない

冒険者はすごいな。 んだよな。それをこんな風に笑い話にできるなんて でも、それも一歩間違えれば大怪我に繋がることな

徴塵も憧れないや。 一応は冒険者の息子ではあるけど、そんな生活には

のが一番だ。 やっぱり、人生はほどほどに働いてのんびり過ごす

「そういや、頼んでいた食材の方は採ってきてくれた

れた。 「うん、たくさん生っていたから採ってきたよ」 父さんが尋ねると、ヘルミナがポーチの中に手を入

採ってきてもらうように頼んでいたんだっけ。 確か依頼のアドバイスをする代わりに、外で食材を

チから四つの瓶を取り出した。 ワクワクとしながら待っていると、ヘルミナがポー 一体、どんな食材を採ってきてもらったんだろう?

瓶の中に入っているのは綺麗な四角い形をしたイチ

「あっ、カクイチゴ」

「今はちょうどたくさん生っている時期だからな」

「なるほど」

「そういうわけでトーリ。コイツでジャムを作ってく

「えー? 僕がやるの?」

し付けられてしまった。 感心して頷いていると、シレッと父さんに仕事を押

くれてもいいんだぜ?」 なら、俺がジャムを作って、 「残念ながら俺は夕食の仕込みで忙しいからな。なん トーリが仕込みをやって

「……ジャム作りをします」

働な作業をやらされるので引き受けるしかない。 てしまった。しかし、これを引き受けないとより重労 せっかくのまったりとした昼寝時間が作業に変わ

・レティも見学しなさい」

僕から作り方を学んでこいとの母さんのお達しだろ 瓶を手にした移動すると、レティも付いてきた。

ことをする。 「レティが作れるようになってくれると助かるよ」 僕の負担を軽減させようとするなんで母さんもい

ちゃんは難しい仕事を振られるんじゃない?」 「でも、ジャム作りを私ができるようになると、 ……前言撤回、レティはどこかに行っていいよ。ジャ お兄

「やだよ。そうしたら私が怒られるじゃん」 レティを追い払うもどこかに行ってくれない。くつ、 も母さんの策略だったか。

ム作りは秘伝なんだ」

り出すと、流しでサッと洗う。 仕方なく二人で厨房に入る。瓶からカクイチゴを取 洗い終わったら綺麗な布で水分を拭きとり、ペティ

> が、カクイチゴはサイコロのように角ばっているので を測る。 楽だ。僕だけでなくレティもやってくれるので早い。 ナイフでヘタや傷んでいるところを落とす。 ヘタを落とし終わったら、鍋に入れて測り器で重さ 丸みを帯びたイチゴはヘタを落とすのが少し面倒だ

ぎだって!」 わー! そして、重さの半分の量の砂糖を鍋に入れた。 お兄ちゃん、寝ぼけてるの!

止めてくる。 ドバドバと砂糖を入れていると、レティが大慌てで

の半分くらいの砂糖を入れるんだ」 「ハや、入れすぎじゃないよ。ジャムを作るには具材

間保存できるように砂糖を入れるのは当然なんだ」 がいいだろう。 さんがパンにかけ過ぎってよく注意してくるんだ」 「こんなに入ってるなんて知らなかった。だから、母 「そもそもジャムっていうのは保存食だからね。 「え、そうなの?」 僕がきっぱりと説明すると、レティが日を丸くする。 それなりに高カロリーなので適量を塗って食べるの

「蓋をしてしばらく放置。カクイチゴの水分が出るま

で、しばらく待つ」

「なるほど」

その間、僕は昼寝をする」

えっ

、レティも適当に過ごしていていいよ。 砂糖が溶けて

きたら起こしてね」

戸惑いの声を上げるレティを放置して、僕は自分の

寝室に戻った。

こんな自由な時間の使い方、前世のようなブラック

企業では絶対にできないだろう。 これだから異世界は最高だ。

ぺちぺちと頬を叩かれる感触で目が覚めた。 目を開けるとそこにいるのはレティだ。なんだか酷

く呆れた顔をしている。

:::なに?:

砂糖、溶けたよ

そういえば、ジャムを作っていて砂糖が溶けるまで

昼寝をしていたんだっけ。

・・・もう溶けちゃたか

「ほら、早く起きて」

寝惚けまなこをこすりながら起きると、 レティに背

中を押されるように厨房に向かわされる。

鍋の中を覗き込むと、カクイチゴの水分で砂糖が溶

けていい感じにしっとりしていた。

「うん、問題ないね。後は煮るだけだよ」

ヘラで軽く潰しながら感触を見たが悪くない。

鍋をコンロに移動させると、高火力の火をつける。

煮詰めていると白い泡のようなものがせり上がって

きた。

「ほら、アクが出ているよ。すくってすくって」

「絶対、お兄ちゃん楽しようとしてる」

レティにアク取りの指示をしていると、ちょっと納

得していなさそうな顔。

「すくうように混ぜるだけじゃ底が焦げ付いちゃう。

全体をしっかりかき混ぜて」

「わわっ」

無駄なことを考える時間を与えないように僕は注意

う兄の優しさだ。 決して、 する。 これはレティにジャム作りの経験を積ませようとい

しているわけではない。

妹をこき使って楽しようと

うちでは果肉をしっかり残したタイプが家族もお客

も好きなので、あまり果肉を潰さない。

みと酸味で十分なので不要だ。お好みでレモンを入れてもいいが、カクイチゴの甘

「結構とろみが出てきた」

すると固まった。 冷水の入ったコップの中に少し入れてみる。しばらく レティが必死にかき混ぜながら報告してきたので、

「うん、とろみや色のツヤも十分だね。これで完成だ

٢

ないから疲れる―」「やった―!」単純作業だけどずっと混ぜないといけ

消毒しておいた瓶を持ってくる。ちょっとへばった様子のレティを横目に、僕は煮沸

そこに注ぐと保存用ジャムの完成だ。

「じゃあ、早速味見しようか」

紅茶を持っていく。 ぐったりしてるレティの傍に焼き上げたトーストや

「え?いつの間にこんな用意を?」

「レティが煮詰めている間にね」

にはいかない。 さすがにずっと妹にだけやらせてサボっているわけ

味見に備えての準備くらいするさ。

味見にしては準備万端過ぎるけど、頑張った僕たち 「やった! さすがはお兄ちゃん! 気が利く!」

にご褒美は必要だよね。

庭で洗濯を終えたばかりの母さんにも必要なものだ。それは後ろで必死に仕込みをしている父さんや、中

「父さんと母さんも味見する?」

「おう、ずっといい匂いがしてたしな」

「ちょうど小腹が空いていたところなのよね」

何うようにして見ていた二人に声をかけると笑顔で

やってきた。

そして、家族全員が批うと皆でカクイチゴのジャム

をつけてトーストを食べる。

合っており、とても美味しかった。 まろやかな甘みと適度な酸味が非常にトーストに

ことなく、適度な量を塗っていた。なお、レティはいつものようにジャムをつけ過ぎる

ĵ





Welcome to O MY INM.

靴がといった身近なものから大通りは服命や八百が

鍛冶ルや武力がなんてものもある

第2巻発売予定! 1100

こっち こっち

※単行本発売時のまま収録しています。

ガンガンコミックスUP!



転生したら宿屋の息子でした 田舎街でのんびリスローライフをおくろう

1

English Chapters by Manga UP! Global 2022 Ripped & Compiled by Oak

> 原作 錬金王 作画/高瀬飛鳥 キャラクター原案/阿倍野ちやこ

> > ○年品社 ~ 2021 Asuka Takase



くべ ブ抜け 誤植 内容についてのお掛い合わせい

スクウェア エニックス サポートセンター http://sqex.to/jp.btatoga_support くビュワーの不具合 - 西ダウンロートできない等、販売に関するお問い合わせン 本作品を購入された電子書籍書店のサポートセンターにお問い合わせください。 この作品はフィクションです。 大在の人物 「団体 事件などには、いーさい関係ありません 本作品は、作品のオリンナリティを尊重し、台詞や表現を発表当時のまま収録しています。 あくまで作品世界の中での表現であることをご理解くたさい

また、各種情報や表示価格などを単行本発売時のまま収録していることによ 、 その後の情報と異なっている場合があります。

本作品の内容の「部あるいは全部を、著作権者、出版権者等の設認なく、 転載、複写、複製、公衆送信(放送) 石線放送 インターネートへのア・プロート 翻訳、翻案等を行うことは、著作権法上の例外を除き、法律で禁しられています。 これらの行為を行った場合、法律により刑事罰が得せられる可能性があります。

EXTRA CONTENTS !! カバー折り返し



※コミックス発売時のカバー折り返しを収録

EXTRA CONTENTS !! 表紙 表



※コミックス発売時の表紙 表を収録

EXTRA CONTENTS! 表紙 裏



※コミックス発売時の表紙 裏を収録

EXTRA CONTENTS !! カバー裏



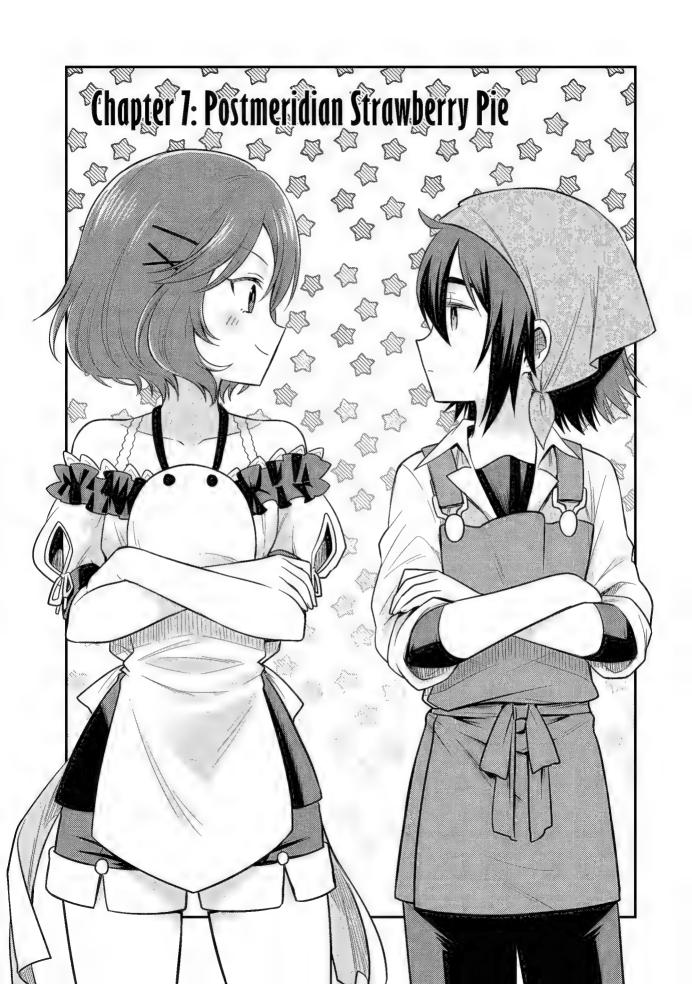














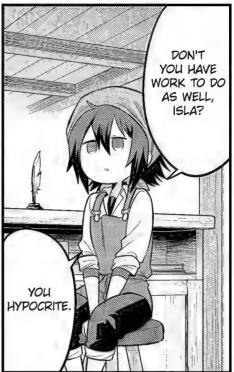
A LOT OF
WHAT LETTY
KNOWS COMES
FROM ISLA, LIKE
HOW TO DEAL WITH
ANNOYING GUESTS
OR HOW TO PROPERLY
DO RECEPTIONIST
WORK.





WE'RE VERY CLOSE WITH HER. ESPECIALLY LETTY.



















COUNTING FROM PLATINUM TO A PENNY, THEY VALUE FROM HUNDRED THOUSAND, TEN THOUSAND, THOUSAND, HUNDRED, AND TEN MERRILLS RESPECTIVELY.

MERRILL IS THE UNIT OF THE CURRENCY.





















THIS WORLD'S **CURRENCY IS DENOMINATED** INTO PLATINUM, GOLD, SILVER, COPPER COINS, AND PENNIES. TRADING IS MOSTLY DONE USING COINS.



















· O(

GUESS IT'S OFF-LIMITS FOR ME...



